

～ “地域の学校” を目指して～ 「水辺の学縁」プロジェクトとは？

◎より地域に根付いた道の駅を目指すため、地域と地域、人と人との縁を広く結んでいく縁結びステーション発の「地域の学び舎 水辺の学縁（学園の意）」を構築していく計画です。

◎学びの志を同じくする住民同士が、この学び舎を通じ地域の枠を超えて交流でき、更には参加者の口コミにより周辺地域の様々な情報がここを拠点に周辺住民に広く伝わっていただけるような地域の学び舎づくりを目指します。

・現在、全生徒数も120人からご参加頂いている「ゆるゆる田舎塾」と会員数80人を超えた「いなばスローツーリズム交流会」を中心に、現段階では以下の5つのプログラムを企画しています。

（※「ゆるゆる田舎塾」および「いなばスローツーリズム交流会」については、別紙をご参照ください。）

1. 主にものづくりを学ぶ「ゆるゆる田舎塾」、「八上姫講座」
2. 広い意味での社会見学が中心となっている「いなばスローツーリズム交流会」
3. スポーツ教室のような屋外実習による「水辺プラザ青空教室」
4. 野菜ソムリエを招き、地域の生産地を実際に訪ねて行う「収穫から行う田舎の料理学校」
5. 地元の保育園や小学校の子どもたちを道の駅に招いたり、教育現場に出向いて行ったりする食育指導士による「食育セミナー」

上記3および4については、この秋の開催が決定しています。「水辺プラザ青空教室」では、河原町内の古代遺跡を巡るノルディックウォーク体験会を予定しています。「収穫から行う田舎の料理学校」では、河原町内の梨園での梨狩り体験・料理教室を予定しています。



（写真は左上から時計回りに、「女子力アップ☆八上姫講座」の「野菜ソムリエセミナー」開催時の様子・「ゆるゆる田舎塾」の「陶芸教室」開催時の様子・「大人の社会見学ツアー 河原町の清流ブルー満喫体験ツアー」開催時の様子・「因幡の白兔ミステリーウォークバスツアー」開催時の様子）

八上姫のさとへようこそ



八上姫とは？

稲羽八上比売命（いなばやかみひめのみこと）

河原町曳田の売沼神社（めぬまじんじゃ）に祭られている神様で、有名な「因幡の白兔」の逸話にまつわるラブストーリーのヒロインです。ここ河原は八上姫のふるさととされる町です。平成17年4月頃には鳥取県が「日本でいちばんはじめの恋物語」をキャッチフレーズに、大国主命と八上姫をデザインした観光ポスターを作成してPRしました。ポスターは事務所前カウンターに貼り出しておりますので、ぜひ一度ご覧になってください。話は戻りますが、伝承によりますと、八上姫は他国にも知られた美女だったといえます。



大国主命が旅の途中、通りかかった海岸で、サメをからかったために毛をむしられ赤肌になって泣いているウサギを助けてやりました…この「因幡の白兔」のエピソードは、大国主命が八上の郷、つまり現在の河原町に住む八上姫に求婚しに行く途上の出来事でありました。八上姫神話の舞台になった河原町には、売沼神社をはじめ、八上姫の墓といわれる古墳、故事に由来した地名など今もあちこちに古代のロマンスが息づいています。



大国主命と八上姫の神話とは？

※画は岩美町在住のアニメーター、辻 量子さんによるもの。

大国主命が須佐之男命（すさのおのみこと）から「お前の異母兄弟の八十神（やそがみ）達を追い払い、国を治めよ」と言われ、国造りを始める少し前の話です。

昔、大国主命の異母兄弟、八十神達は、因幡の八上姫に求婚しようと考えました。八十神達は、求婚の旅に出るとき、大国主命を従者として連れて行くことにし、袋を背負わせます。

旅の途中「因幡の白兔」に出会うと、助けた大国主命に白兔は予言します。「八十神達は八上姫を得ることはできないでしょう。袋を負うていても、八上姫をめとるのはあなたでしょう。」そして、八上の郷にたどり着き、八上姫に求婚した八十神達に対し八上姫は言いました。「私は、あなたたちの話を聞くわけにはまいりません。私は、大国主命に嫁ぎます。」

八上姫と大国主命は契りを結びます。しかし、怒り、妬む八十神達は大国主命を殺そうとします。一時難を逃れるため、八上姫と山に逃げました。河原町本鹿にふたりを祀る多加牟久神社がありますが、途中駆け上がったときついた地名が河原町中井に残る懸上り（かけあがり）です。

さらに、八十神達にねらわれた大国主命は二度も命を落とし、その度に母神に救われます。また、須佐之男命から数多くの試練を受けた大国主命は八十神達を討ち、国造りを手がけていきます。

八上姫と契りを結んだ大国主命は、寝所を共にし、二人の間に誕生した御井神（別名木俣の神）と共に出雲の国へ招きます。しかし、正妻須勢理姫（すせりひめ）は嫉妬深く、これを敬遠した八上姫は生まれ故郷の八上の郷へ帰ってきます。八上比売神社と河ひとつ隔てた対岸にある黒木神社には御井神が大国主命と共に祀られています。結局は八上の郷へ帰ることとなったのですが、命におきさきがあることを知らず、八上姫は出雲の国に帰られた命を慕ってはるばる旅に出られ、その途中出雲の入り海（宍道湖）で温泉に癒されたという説も存在するようです。そのときの温泉が今の鳥根県豊川町にある湯の川温泉です。この説の中では、そのとき臨月だった八上姫は神奈火山の麓直江の里まで帰られたときに御井神を挙げられたとなっています。そして御井神は木の俣に預け、母神のみ因幡に帰られたということです。

その後因幡へ帰られた八上姫は霊力をもって、八上族とでも名づけるべき一大部族を統治したといわれます。

